

^13
3961
~~17~~19



門 13
號 3961
17

曲亭馬琴著

下帙四弓合本

還道村受天書

くさじらひふてんをうく
この言個へ
春雨大箱が

轉福為福通夜物語

傾城水滸傳第九編之三

丹波路懲贖物

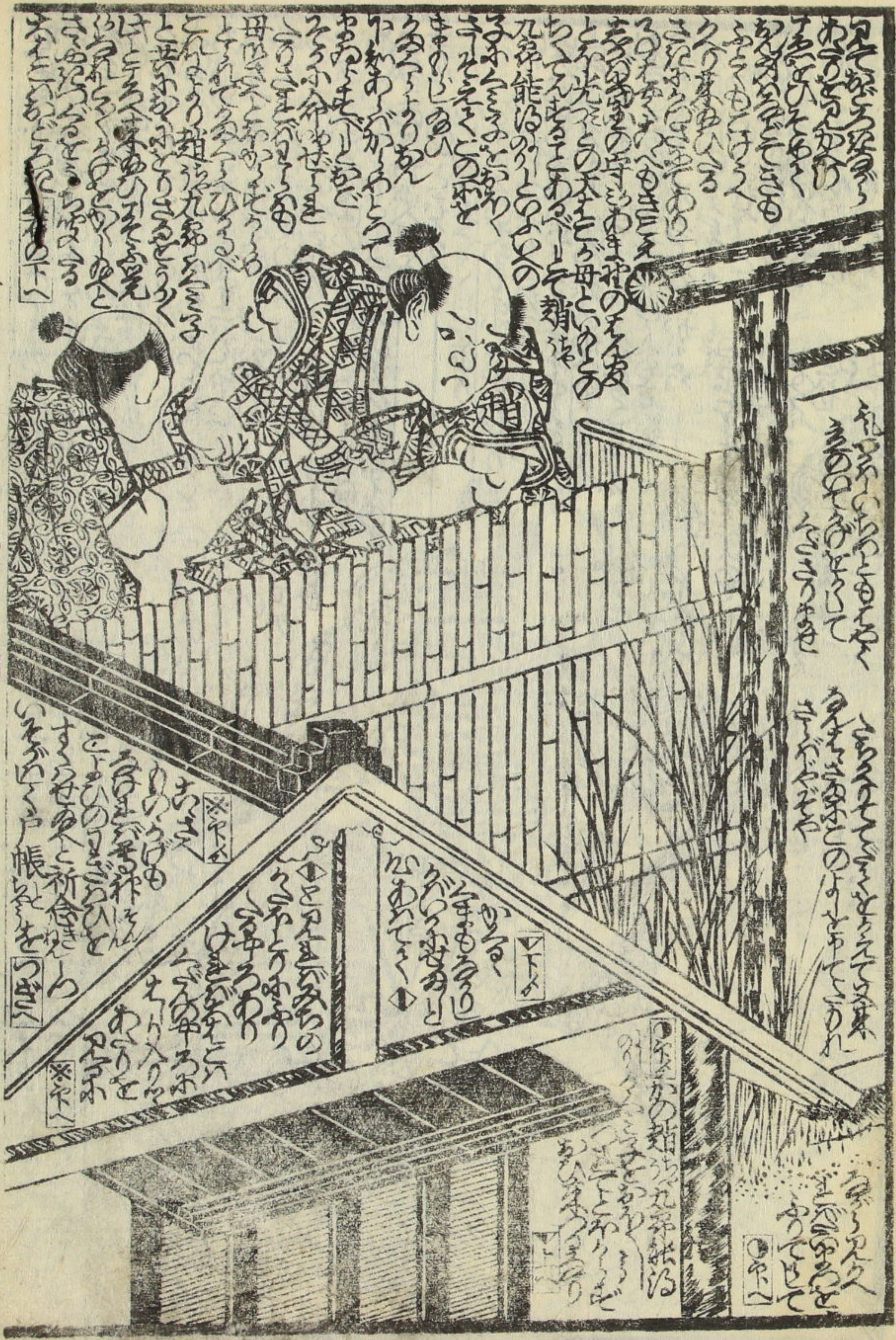
丹波路に於て
風力書詩が

吹毛求疵舊里話表

歌川國安画

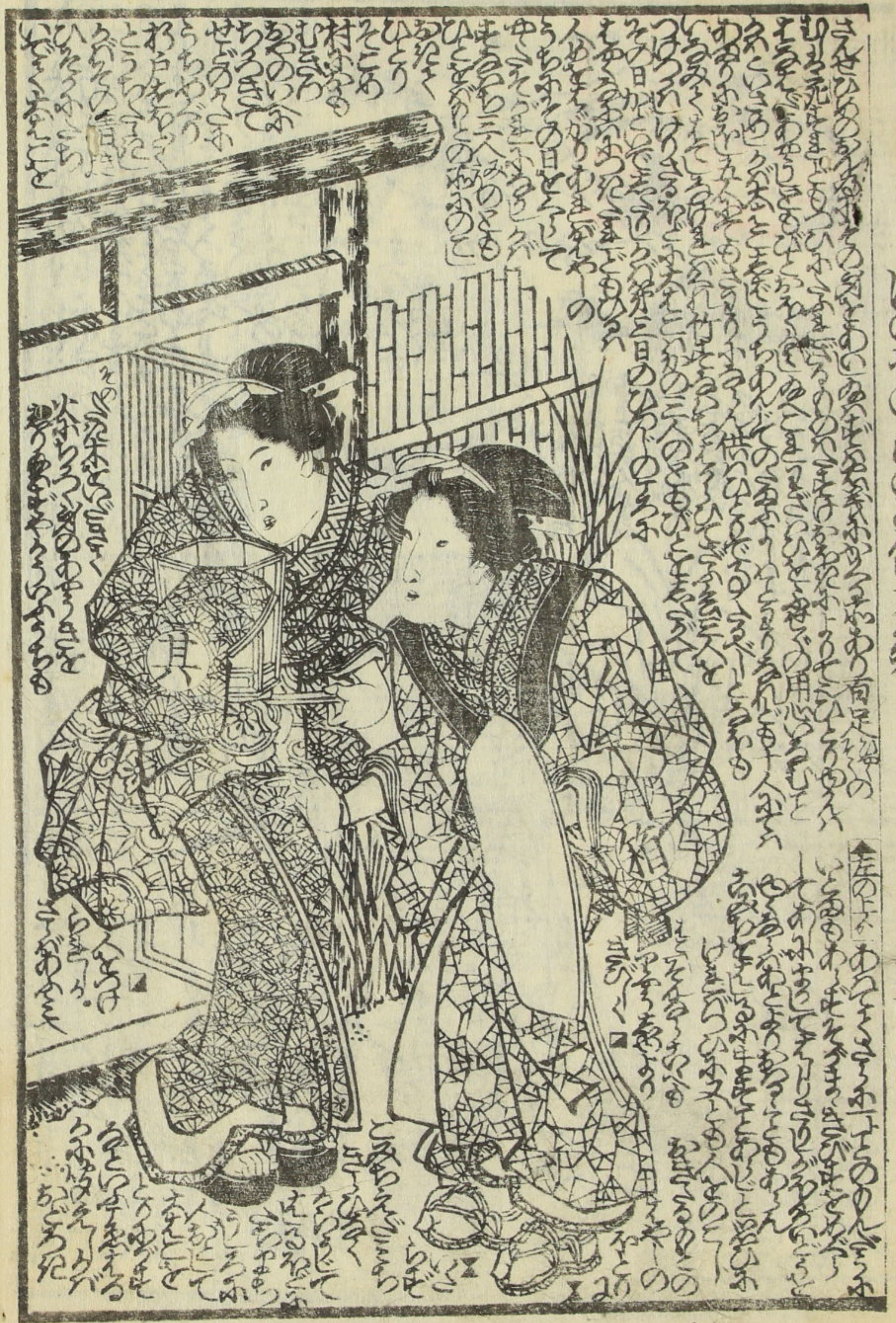
書行僊鶴堂梓





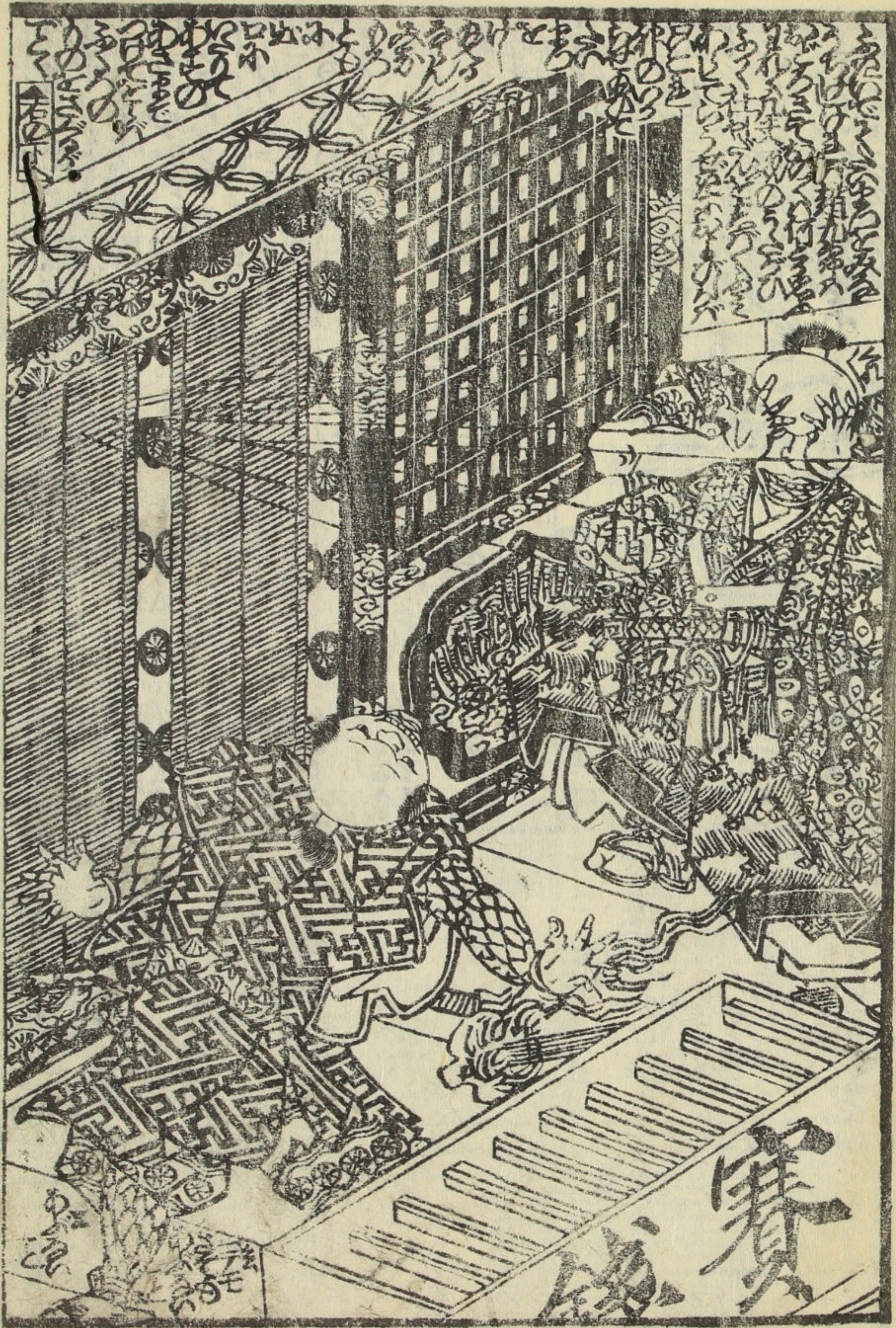
かきかきかきかきかき

十一



かきかきかきかきかき

十一



Vertical text on the left margin of the first page.



Vertical text on the right margin of the second page.

ナニ



かたがはのしづか

十三



かたがはのうらなひのうらなひ

117



かたがはのうらなひのうらなひ

118





あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...
あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...

あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...
あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...

あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...
あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...



あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...
あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...

あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...
あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...

あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...
あつて人をついで母をたもてて...
とふれりたつてをたもてて...

しんせいのこひのうた

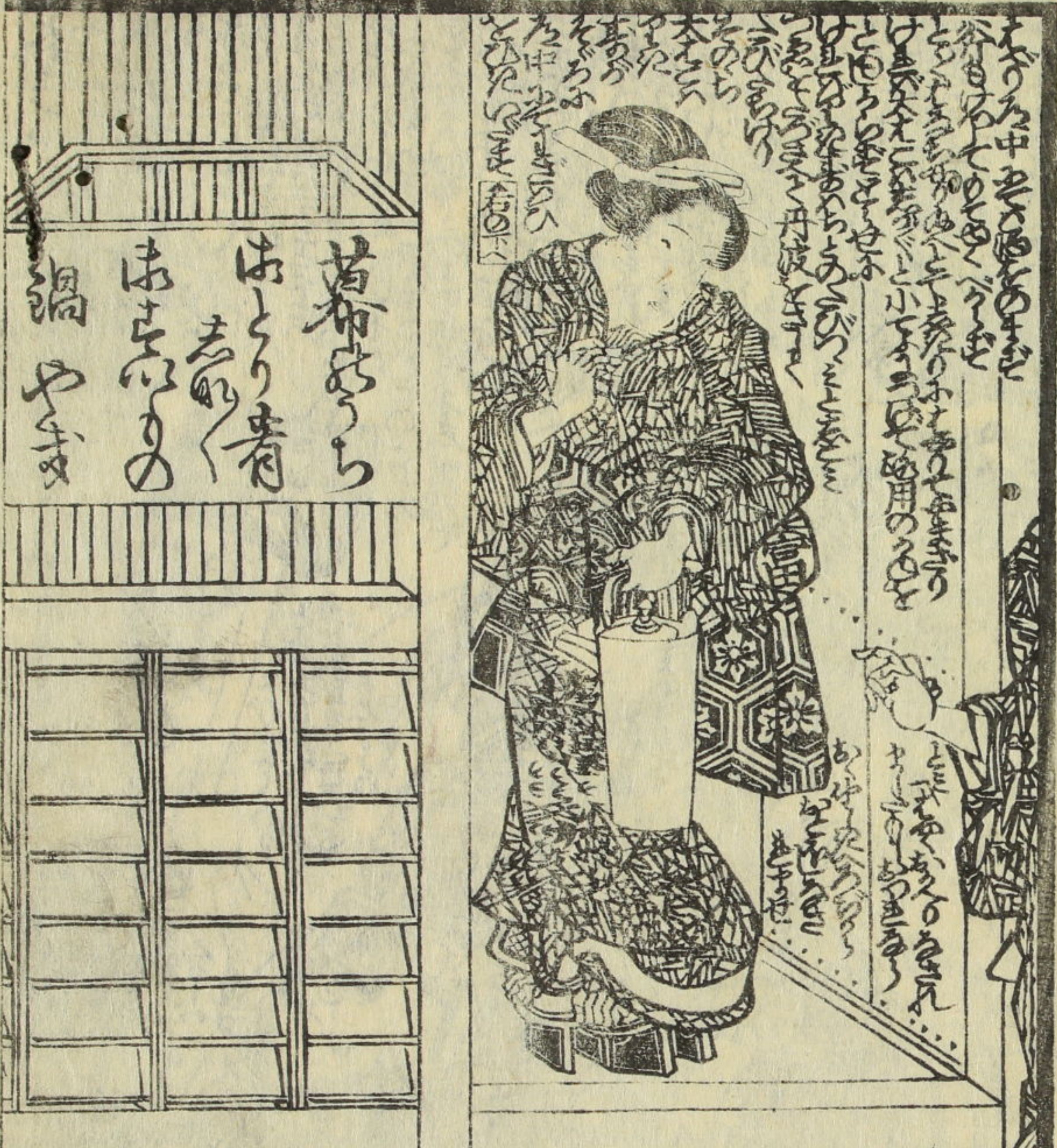
十一



此の世に於ては...
 人の心は...
 世の常は...
 人の世は...
 世の常は...
 人の世は...

此の世に於ては...
 人の心は...
 世の常は...
 人の世は...
 世の常は...
 人の世は...

此の世に於ては...
 人の心は...
 世の常は...
 人の世は...
 世の常は...
 人の世は...



此の世に於ては...
 人の心は...
 世の常は...
 人の世は...
 世の常は...
 人の世は...

此の世に於ては...
 人の心は...
 世の常は...
 人の世は...
 世の常は...
 人の世は...

此の世に於ては...
 人の心は...
 世の常は...
 人の世は...
 世の常は...
 人の世は...

此の世に於ては...
 人の心は...
 世の常は...
 人の世は...
 世の常は...
 人の世は...



年代記見立重講譯 初編全二冊 山東京山作

此稗史ハ神代のむらじりの年代記ハ考ふるもの外ハれたるを補ひかりろくしおのりを絵ふありしこれをよめりむらじり世ののをとりあはせりて童子のりれたるなりともなるべし

年中御祝儀日童講譯 初編全二冊 山東京山作

此稗史ハ正月の松を始とて終りに終るを祝ふもの七全の事ハのりけのりまを十二月の終る日の故書未だ思ふもの多きそのを絵ふありし年中の祝儀のりけのりまを早学文のりまなり

奉獨藝古今中本 全二冊 速軒操舟合

此の建の奉と夫の心は初めの官人から終るまで其の事ハ月夕儀のりまを早学文のりまなり



Vertical text on the right margin of the illustration, likely a commentary or a note related to the scene.

戲場顯微鏡

上帙二冊 彩色

默々漢隱 著

此書は戲場考古博覧の諸子著述する新劇の重要なるもの皆故事
監齋のものとあつて前者の規則をあらわしきものなり其の
つらみはつらみととも其居のつらみとつらみなりゆいゆい
おのれ功名とともそのつらみなり且三つともあるはれはれ
考古の終りなり

本朝艶容女仙外史

初編 五冊

默々漢隱 纂

この書は唐の逸史の著者せし妙案を奇に採りて
従事するはこれに本朝の艶容女の作なり其の
のつらみはつらみととも唐の艶容女を以て其の
つらみはつらみととも唐の艶容女を以て其の
つらみはつらみととも唐の艶容女を以て其の

萬邦劇場談

二冊

默々漢隱 著

これ初編のつらみはつらみととも唐の艶容女を以て其の
つらみはつらみととも唐の艶容女を以て其の
つらみはつらみととも唐の艶容女を以て其の

瀧澤篁民著

迎福南鍼録

一名相宅手引草
全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳一奇

大本全五冊繪入
平假名附 近刻

右重具遠近板仕江戶通油書林 仙鶴堂小林喜右衛門行

近來選擇相宅の書手は月日行て五車小
笠下は汗を流すなり然るもその法初心の為ゆ
を解して死を三つなり折の書員協紀辨方書に本
つて方位相神意走避の要領著者なり吉に就
の避禍禳福を述べて宗とされ示すものなり
の字を疎くて枝葉不辨のつらみはつらみ
の易なり大抵一家の主たるの常小坐右小指と
凶悔吝の惑るるは日用有良の良籍なり

この書は雅と俗とをわけて行状の奇ある古今の
外傳之輯録として勸懲の一端とされし忠孝
義烈尚氣節操の世に提れるものなり
技藝好事のつらみはつらみととも
是併善言と人の進んて
警人を善言と人の進んて
善言と人の進んて

